

「与論島を活性化させるためにはどのようなことをすればよいか」

所属学部学科：法文学部・経済情報学科

学年・学籍番号：2年・1114501487

氏名：若松 香澄

講義名：島のしくみ

講師名：山本 宗立・大塚 靖

集中講義で与論島に 4 日間滞在して、島のしくみを学んだり島を歩いてまちの様子を見たりして感じたことは、観光で生きてきた島だけあって島の人たちみんなが、島の歴史をよく知っているなど感じた。与論島は、面積も狭いため人口を増やしたり、商業施設などを建てたりするのは難しい。しかし、与論島には若手の働き口が少なく、高校を卒業すると島外に出てしまい U ターンしてくる者は少ない。だから、年々人口が減少してきているのが問題となっている。そこで、私は与論島を活性化するためにはどうすればよいか三つ考えてみた。

一つ目は、青年団を復活させることである。徳之島の天城町では、若い力で地域を活性化させたいとの強い思いから 10 数年ぶりに青年団を再結成させて、島内の夏祭りや中高生を中心にミュージカルを結成した。若者がまちの行事に携わっていくことで、将来島に帰ってきて再び青年団に入り、島を活性化させたいという中高生が出て来たそうだ。(大学で話すみんなの暮らし - 行政・住民・社会・NPO・学校、みんなで話せば面白い! - @鹿児島大学の講演より) 現在、与論島には、青年団はあるが少ないためイベントなどは、役場の若者が中心となって運営している。そのため、役場にいる若者しかイベント運営に携わっていないため、それ以外の若者たちはイベントに参加する側、受け身となっている可能性が高い。だから、20 代・30 代の男女を中心に中高生を含めた青年団を復活させるべきである。島の活性化は島のみんなで行っていく必要があるが、その取り組みを引っ張っていくのは若者である。夏祭りだけでなく、与論島十五夜踊りなどの伝統行事も青年団が中心に行い、次世代へと継承していくために、守り続けていく取り組みも行っていくべきだ。イベントの運営に携わり、島の人たちをつなぐきっかけづくりを担っていく上で、島の良さを知ったり若者が活躍する場や居場所をつくったりすることで、例え一度は島を離れても、再び島に帰ってくる若者が増えるのではないかと考える。

二つ目は、与論島でインターンシップを開催する。対象は島外(九州圏内)からの大学生(3 人程度)をインターン生として迎える。期間は春休みや夏休みなどの長期休暇を利用し 1 カ月~1.5 カ月間程度。インターン期間中は、与論島の抱えている課題解決や島で暮らしながら大学生の目線で島の良さを Facebook や Twitter など SNS で発信したり、学生目線で考えた観光パンフレットを作成したり、島の観光づくりに加わり行政と共同で行ったりする。インターン生の導入を提案する理由は、島内の人だけでは与論島の良さを最大限に引き出すことは、難しいと考えるからである。だから、外部の目線そして、若い目線で与論島の良さを見つけ出し、それを全国に発信していけば、与論島の認知度が上がったり、観光客も増加したりするのではないだろうか。そして、インターン期間中にインターン生と島のひとたちで“これからのヨロンを考える”をテーマに掲げて、ワールドカフェ形式で話し合いを行う。5 人程度のグループで模造紙を広げて、島のことをざっくばらんに広げた模造紙に書き留めるこ

とで、面白いアイデアが生まれるかもしれない。ポイントとしては、島外から見た与論島と島内から見た与論島について話し合い共有することである。島のインターンシップの需要は、都市圏に住んでいる学生にとっては、非常に興味深いため参加したい学生は多いと考える。

三つ目は、島の生活を体感するヨロン巡りツアーである。これも、若者を対象にして島内に住んでいる人たちに協力してもらい、宿泊も民泊にしてサトウキビの収穫や競りの見学、島の人たちがよく行くお店、郷土料理など島のくらしや自然を体感できるツアーを企画して島の生活を体験してもらおう。観光スポットを見るだけでなく、肌で感じることで、より印象深い旅行になりリピーター客が増えるのではないだろうか。そして、観光した際は SNS で写真を投稿してもらい、観光者の知り合いにも与論島を知ってもらおう取り組みを積極的に行う。

以上の三つが私の考えた与論島を活性化させるための案である。いずれも、観光分野に焦点を当てたものであったが、観光の活性化を図ることが与論島の活性化にもつながるのではないだろうかとは私は考える。